



年始行動。「積極的に発信し、全力で行動します」と決意表明。憲法改悪は許さない、沖縄新基地反対、市に対して「指定管理者制度撤回」を求めます。(1・4市役所前)

平和がいちばん

2017年 1月15日

第 115 号

平和で豊かな枚方を
市民みんなで作る会

国は断念 図書館・公民館民営化

政府は昨年11月、図書館・公民館（生涯学習市民センター）など教育施設の運営の民営化（指定管理者制度）は見送り、実質的に断念すると発表しました。地方交付金の優遇措置も絡めて導入が計画されましたが、全国で十数%しか実施していない状況と、政府の調査に「直営でない」と公立図書館として安定した運営ができない」と全国80%以上の自治体が回答した結果を踏まえての方向転換です。

枚方市では昨年4月に「さだ」と「牧野」の館の運営が民間業者に委ねられました。実態はどうでしょう。まず「経費の節減」という当初説明と違って全体の経費が増額になっています。また民営化された2館と中央図書館との関係が難しいとの意見が現場から出ています。さらに運営を請け負う指定管理会社は全国平均で75%以上の社員を非正規で低賃金、一年更新で雇い続けています。この境遇にあ

る社員が将来にわたって図書館と市民に愛着と誇りを持ち続けることが可能か疑問です。民営化された生涯学習市民センターも危機的とも言える状況です。外見からはわからない大きな変化が生じています。頻繁に利用する市民、とりわけ公民館運動の担い手「活動委員会」の方々から「公民館の空洞化」との指摘がされています。それはまず公民館の大きな特色である各館の“祭り”運営に表れています。これまでは全館挙げて事業を作り上げてきました。しかし民間業者になった昨年は実行委員会には「祭り担当」の社員が参加するだけです。近未来の予想が寒々しくなる実情です。

これらの現実を直視するとともに、図書館・公民館運営の民営化断念という当然すぎる政府の判断と、直営を維持するという全国の英知に枚方市も学ぼう求めます。

直言

だれの子ともも 殺させない 手塚 美子

テレビで報道される自衛隊は「災害救助」隊として活躍している場面がほとんどである。広報掲示板などの自衛官募集ポスターやチラシでは『平和を仕事にする』の言葉が目を引く。しかも「就職に有利な多くの資格が取れる」という文言も「印象的」だ。

一方で地域の祭りでの「装甲車展示」など「本場の自衛隊の姿を知ってもらい、理解を得る」「公然たる軍隊として市民権を得ることを目標にした」活動が強められてきている。佐世保市の商店街で毎年強行されている迷彩服姿のパレードはその最たるものだが、箕面市でも二〇一四年に迷彩服で三〇人の隊員が小銃二〇丁を持って徒步行進の訓練を日中行った。守口市役所の新庁舎の中に自衛隊の出張所が設けられた。

自衛隊は「違憲」の存在だと私は思っている。今、怖いのは「自衛隊の本質」がかくされたまま「隊員募集」業務がなされていることである。

（その一）自衛隊発行のパンフの表紙をすっかり飾っている小銃、ライフル、戦車は何のためにあるのか？ 災害救助には全く不必要。敵兵を、さらには作戦の妨げになる住民を脅したり殺すためではないのか。

（その二）二〇一五年九月強行成立された戦争法によって『集団的自衛権』の行使の任務が自衛隊に付与された。ほとんどの憲法学者が「憲法違反」と断じている。しかし昨年一二月駆けつけ警護の任務を帯びて、南スーダンに武器を持った自衛官が派遣されている。

枚方市の中学校で職業講話として五年前から数校で自衛隊員が招かれていることが明るみに出た。公務員の一職業で済ませていいものだろうか。「豊かに生きること」を学ぶはずの学校で、人殺しの訓練を行っている自衛隊を職業として紹介するのは信じられない暴挙」とは現職教員の言葉だ。

手塚たかひろ 議員日誌



12月16日 **一般質問に立つ** ①生涯学習市民センターと図書館の指定管理者制度導入、②香里ヶ丘図書館の建てかえ、③子ども貧困について質問。多くの自治体が図書館の指定管理者制度導入はすべきでないと考えているのに、何が何でも導入ありきの枚方市の姿勢は危険だ。時間をかけて課題を明らかにする検証を充分に行うべきだ。香里ヶ丘図書館の建てかえも市民参加を考えていない。市民無視で建設強行をしようとしたことが市民の反対を生み出した美術館建設問題の教訓を生かしていないことに危惧を覚える。市民は図書館利用者へのアンケート調査を自主的に実施している。このような市民との協働が必要だ。

12月20日 **美術館設置条例廃止** 市議会本会議で提案され、29人の賛成で採択。美術館問題は終結した。市民の力は市政を変えることができることが明らかになった。市民が主人公の枚方市に変えるためには市民参加が不可欠だ。今年こそ市民自治の確立へ大きく前進したい。

12月31日～1月3日 **謹賀新年** 老健施設に入所中の母が一時帰宅し娘夫婦や孫も訪れ、一家団欒で正月を過ごす。このような穏やかな日常がいつまで続くのか。平和と自由がなければ庶民の生活は保障されない。安倍首相は「新しい時代にふさわしい憲法はどんな憲法か。今年はいよいよ

議論を深め、だんだん姿かたちを表していく年にしていきたい」と改憲の意欲を表明した。紛争地南スーダンへの自衛隊派兵、沖縄への新基地建設強行、史上最高の防衛予算、原発再稼働、リニアモーターカーなど無駄な大型公共事業を行うために、介護保険改悪、年金切り下げなど庶民生活を直撃する。また市民の言論、結社の自由を侵害する「共謀罪」法を作ろうとしている。市民の自由、民主主義も脅かされている。高齢者や子どもが安心して生活できる未来のために、安倍首相の退陣を実現したい。

1月9日 **二十歳のつどい** 四中の式に参加。新成人は市全体で4341人。静かな集いだった。若者が希望の持てる社会を作るのが私たちの責任。どうすれば社会が良くなるのか、新成人にもぜひ一緒に考えてほしいと思った。

12月20日 12月分議員報酬から203,914円、期末手当から715,144円を大阪法務局に供託。

私は政務活動費は一円も受け取っていません。

ホッと タイム

今年も多くの方と対話し、社会を変えたい！

松田久子



ある新聞の投書欄に目が止まりました。「平和憲法のもとで70年も戦争をせずにきた歴史をゼロに戻してしまわないでほしい。政治家は、戦争をせずに国を守る方法も真剣に考えてほしい」。14歳の中学生の声です。私は、昨年9月から「戦争法廃止 憲法変えるな！ 沖縄新基地建設中止 枚方・交野実行委員会」で「沖縄に新しい基地をつくらせず、憲法改悪をさせない平和と命を守る緊急署名」に取り組んできました。署名は「市民の会」も取扱い団体になり、枚方市駅や樟葉駅前で行き組み、昨年12月19日に全国3万5千筆余りを福島みずほ参院議員事務所を通じて国に提出しました。短期間ではありましたが多くの方にご協力いただき、ありがとうございました。戦争法の成立後、沖縄での新基地建設や南スーダンでの自衛隊の活動の拡大など、戦争への準備が着々と進められています。署名をし

ていると、私たちの訴えが「理想に過ぎない」と決めつける人に出会うことがあります。武器・武力に頼らない世界が理想であっても、それに向かって努力することに人類の進歩があるわけで、獣ではない人間が人間として存在する意義があるのです。国民に信託された政府であるなら、率先してそのような努力をしていくことこそが国民に対する責任であり、外交手腕が問われる政治そのものではないのでしょうか。これからの日本を担う中学生の声に政府は真剣に答えてほしいと思います。もう一方で、立ち止まって快く署名をしてくださる方やストレートに今の政府のやり方に怒りを表明してくれる方々の「頑張ってください」の声にはとても励まされます。決してあきらめず抵抗運動を続けている沖縄の人々のように、今年も活動していきたい

〒573-0027

枚方市大垣内町

2丁目8-27

シンエービル別館A

市民の広場“ひこばえ”

TEL&FAX

072-846-8780

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 黒田 薫 (平和都市枚方を考える市民の会)

鈴木めぐみ (親子のリズム遊び講師)

奥村 秀二 (弁護士)

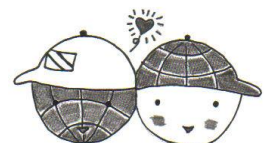
おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)

事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)

スタッフ 松田 久子 (「すずらんの集い」代表)

メールアドレス：hiratkatasiminnokai@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://hiratkatasiminnokai.jimdo.com/>



「会」のシンボルマーク

塔本賢一さん作

